

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成26年度から「高大連携重点型」工科高校として再出発し、「工学系・大学進学専科」を1クラス設置して、昨年度で第3回目の卒業生を送り出した。

本校がこれまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、スローガン（標語）である「生徒が主役！ー生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現ー」を掲げ、ものづくり人材の育成を図るため、育成する生徒像を以下に示す。

- 1 ものづくりに興味・関心をもち、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用できる生徒。
- 2 自ら課題を見付け出し、思考力・判断力・表現力等を駆使し、チームワークで解決を図ることができる生徒。
- 3 工業人として高い倫理観と責任感をもち、生涯にわたって人間性の向上に努め、社会や人生に学びを生かそうとする生徒。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と授業改善

- (1) 授業の質の向上を図り、基礎的・基本的な学力が定着できるよう、授業改善に取り組む。

ア 生徒の実態を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。

イ 教員の授業力向上のため、教員相互の授業見学や研究授業の活性化と、外部との連携による研修の充実を図る。

ウ 家庭学習の定着と、読書活動を推進できるように学校図書館機能の充実を図る。

※授業アンケート結果における授業満足度（平成28年度79.0%、平成29年度80.8%、平成30年度80.3%）を、2021年度には83.0%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業の工夫等」（平成30年度48.0%、H26～H30平均51.9%）を、2021年度には55%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「家庭学習者の増加」（平成30年度21.5%、H26～H30平均23.5%）を、2021年度には25%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「図書館機能の充実」（平成30年度55.0%、H26～H30平均57.1%）を、2021年度には60%以上にする。

- (2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。

ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア教育・職業教育の充実を図る。

イ 生徒が様々な資格に挑戦できるよう、日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。

ウ 英語の4技能（「聞く・話す・読む・書く」）をバランス良く指導し、国際的な視野を有する技術者を育成する。

※インターンシップ参加者（平成28年度65名、平成29年度42名、平成30年度32名）を、学級減を踏まえて2021年度には45名以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「実習授業満足度」（平成30年度72.5%、H26～H30平均75.8%）を、2021年度には77%以上にする。

※資格取得者の増加を図り、全国工業高等学校長協会（全工協会）で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、ゴールド[G]・シルバー[S]・ブロンズ[B]の取得（平成28年度G3名・S8名、平成29年度G4名・S8名、平成30年度特別賞1名、G4名・S7名・B2名）を、学級減を踏まえて2021年度にはG5名・S10名・B5名以上にする。

2 夢と志をもつ生徒の育成

- (1) 志学や人権教育・支援教育の育成を踏まえ、豊かな情操と道徳心を培う。

ア 生徒の発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。

イ いじめ対応や支援教育の充実のために教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。

ウ 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少に努める。

エ 情報モラルやセキュリティに関する教育の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における「人権教育等の充実度」（平成30年度46.5%、H26～H30平均46.4%）を、2021年度には50%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「先生の相談対応」（平成30年度52.0%、H26～H30平均53.8%）を、2021年度には55%以上にする。

※問題行動指導（平成28年度14件・32名、平成29年度11件・29名、平成30年度7件・16名）を、2021年度には件数を一桁台にする。

※遅刻件数（平成28年度4,453件、平成29年度3,268件、平成30年度3,761件）を、学級減を踏まえて2021年度には2,300件以下にする。

※転退学率（平成30年度1.72% [転学0.75%、退学0.97%]、H25～H29平均2.29% [転学1.08%、退学1.21%]）を、2021年度には1.8%以下にする。

- (2) 生徒の自己実現に向けた支援を図る。

ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、学校行事を含めて生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。

イ 工学系大学進学専科の指導充実を図り、国公立大学への進学を含め生徒の多様な進路希望の実現を図る。

ウ 卒業後の追跡調査の精査をめざすため、3年後の離職率調査を実施する。

エ 進学した卒業生の大学学習状況調査を実施する。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路に関する行事の充実」（平成30年度67.5%、H26～H30平均67.2%）を、2021年度には70.0%以上にする。

※就職一次合格率（平成28年度82.1% [工科平均82.6%]、平成29年度83.6% [工科平均84.8%]、平成30年度84.9% [工科平均86.1%]）を、2021年度には工科平均以上にする。

※就職希望者内定率（平成28年度100% [214名]、平成29年度100% [220名]、平成30年度100% [203名]）、大学進学希望者内定率（平成28年度95.1% [78/82名]、平成29年度98.8% [82/83名]、平成30年度93.6% [44/47名]）を、2021年度には共に100%にする。

※3年後の離職率（平成30年度23.8%、H27～H30平均23.3%）を、2021年度には21%以下にする。

3 信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 広報活動の充実を図り、志願者の安定的確保を図る。

ア 平成31年度の旅費縮減を踏まえて、中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。

イ 地域の小・中学校等との連携を深め、学校の活性化を促進する。

ウ 中学卒業生が減少する中、入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。

※幼・小・中学校との連携（平成28年度5回、平成29年度7回、平成30年度7回）を、2021年度には8回以上にする。

※志願倍率（平成29年度入試 [総合] 1.014倍 [工学] 1.725倍、平成30年度入試 [総合] 0.875倍 [工学] 1.625倍、平成31年度入試 [総合] 0.963倍 [工学] 1.275倍）を、2021年度には総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。

- (2) 教員の「ものづくり」技術の継承を図るとともに、生徒がものづくり大会等で全国大会出場や入賞できるよう支援を行う。

ア 旋盤・電気工事・電子回路組立などものづくり大会へ参加や、課題研究作品をコンテストに応募するなど、全国大会出場や入賞をめざす。

イ マイコンを利用したマイコンカーレース・ロボット相撲大会・パソコン甲子園等に参加し、全国大会出場や入賞をめざす。

※高校生ものづくり大会旋盤部門（近畿大会：平成28年度準優勝・第5位、平成29年度準優勝・第3位、平成30年度第5位）を、2021年度には全国大会に出場する。

※全工協会の高校生技術・アイデアコンテスト全国大会（平成30年度優秀賞・理事長特別賞の2作品受賞）に課題研究作品を応募し、上位入賞をめざす。

- (3) 生徒が生き生きと学校生活を送り、未来を支援できるよう学校組織の改善を進める。

ア 部活動加入率の向上とともに、「部活動に係る活動方針」に則った活動と、環境整備や安全対策の強化を図る。

イ 学校課題について五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で検討し、組織的に迅速な実行を図る。

ウ 教職員が互いの情報を共有化するため、校内イントラネットを活用した校務のICT化を進める。

※部活動加入率（平成28年度69.0%、平成29年度66.8%、平成30年度64.7%）を、2021年度には70%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	<p>(1) 学力の定着と、授業改善 ア 「魅力ある授業」「わかる授業」の推進 イ 教員相互の授業見学や研究授業、外部と連携した研修の充実 ウ 家庭学習と学校図書館機能の充実</p> <p>(2) ものづくり教育 ア キャリア教育・職業教育の充実 イ 資格取得への支援 ウ 英語の4技能指導による技術者の育成</p>	<p>(1) ア・授業では、生徒の学習意欲の向上を図り、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、教科指導力の向上を図る。 ・全学年において基礎学力調査等による生徒学力定点観測・分析を行い、課題の克服を図る。 イ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員相互の授業見学、授業力向上研修を進める。 ウ・家庭学習の定着とともに、学校図書館機能の充実を図る。</p> <p>(2) ア・企業や大学等の連携により、キャリア教育・職業教育への興味や関心を高める。 イ・様々な資格取得を組織的に進め、生徒の付加価値を高める。 ウ・1, 2年生で英語学力調査を実施し、4技能の分析を行い、英語教育の指導に生かす。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの質問9「授業満足度」81%以上 (H30:80.25%) ・学校教育自己診断「授業の工夫等」平均53%以上 (H30:1年44%、3年52%) ・生徒の経年値学力の変化検証 入学時の教育産業の基礎力調査(国数英)の平均計210点以上 (H30:国72.5点、数69.7点、英70.0点、平均計212.3点) イ・相互授業見学1人2回以上 (H30:6・10月授業週間で見学実施) ・公開研究授業の実施(各教科) (H30:6・10月授業週間で実施[教員・保護者対象]) ウ・学校教育自己診断「家庭学習者の増加」平均24%以上 (H30:1年17%、3年26%) ・学校教育自己診断「図書館機能の充実」平均58%以上 (H30:1年53%、3年57%)</p> <p>(2) ア・インターンシップ参加者数: 35名以上 (H30:32名) ・学校教育自己診断「実習授業満足度」平均76%以上 (H30:1年75%、3年70%) イ・ジュニアマイスター:H30取得者数からの増加 (H30:特別1,G4,S7,B2) ウ・英語学力調査の結果から、課題と経年値を把握し、指導の見直しを図る (H30の1年生:聞く・読む・話す⇒予備的なレベル、書く⇒入門的なレベル)</p>	

<p>2 夢と志をもつ生徒の育成</p>	<p>(1)豊かな情操と道徳心 ア 発達段階に応じた人権教育の充実 イ 教育相談体制の充実 ウ マナー向上とルール厳守、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少を図る エ 情報モラルやセキュリティの啓発に努める</p> <p>(2)生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実 イ 進路希望の実現 ウ 離職率調査 エ 大学進学者への学習状況調査</p>	<p>(1) ア・人権講演会や人権HRを実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」共生社会を学ぶ。 イ・支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を強化し、教員による相談対応の充実を図る。 ウ・集会時や日々の学校生活において啓発を行い、問題行動の防止に努める。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせ、遅刻件数の減少を図る。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 エ・情報に関する授業での指導と、集会時や外部講師による啓発等を行う。</p> <p>(2) ア・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路に関する学校行事の充実を図る。 ・就職一次合格率の向上を図る。 イ・就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな進路指導を行う。 ・工学系はじめ大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進路指導を行う。 ウ・卒業3年後の離職率調査を継続し、就職者の定着を進める。 エ・大学進学者への学習状況調査を継続実施し、進学指導に生かす。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権教育等の充実度」平均48%以上 (H30:1年49%、3年44%) イ・学校教育自己診断「先生の相談対応」平均54%以上 (H30:1年52%、3年52%) ウ・問題行動指導:件数一桁台 (H30:7件・16名) ・遅刻件数:2,500件以下 (H30:3,761件) ・転退学率:2.1%以下 (H30:1.72%) エ・外部講師等による啓発:各学年1回 (H30:全学年実施)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」平均68%以上 (H30:1年71%、3年64%) ・就職一次合格率:工科平均以上 (H30:84.9%、工科平均86.1%) イ・就職希望者内定率:100% (H30:就職100%) ・大学進学希望者内定率:100% (H30:進学93.6%) ウ・離職率:22.5%以下 (H30:23.8%、回収率99.1%) エ・調査結果の分析、課題の精査 (H30回収率:51.9%) 課題⇒数Ⅲ・物理 優位性⇒工業の技術・知識、レポート作成、プレゼン能力</p>	
<p>3 信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1)広報活動と志願者確保 ア 広報活動の検討・充実 イ 地域との連携 ウ 志願者倍率</p> <p>(2)ものづくりに対応する教員の育成 ア ものづくり大会・コンテスト等への参加 イ マイコンを利用した大会への参加</p> <p>(3)有意義な学校生活と学校組織の改善 ア 部活動の振興 イ 学校課題の対応と迅速な組織体制 ウ 校務のICT化</p>	<p>(1) ア・修学旅行を含め、中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。 イ・地域の小・中学校との連携を深め、学校の活性化を図る。 ウ・様々な機会を捉えて学校PRを行い、入学者選抜の志願者を確保する。</p> <p>(2) ア・学習成果の場として、ものづくり大会やコンテスト等へ参加し、上位入賞をめざす。 イ・マイコンを利用したマイコンカーレース・ロボット相撲・パソコン甲子園等に出場し、上位入賞をめざす。</p> <p>(3) ア・部活動加入率を向上させ、「部活動に係る活動方針」に則った効率的な活動を図り、活気ある高校生活を送れるよう、環境整備や安全対策を強化する。 イ・五役会(校長・教頭・首席・指導教諭・事務長)で将来構想や課題を分析・検討し、学校組織の改革を図る。 ウ・職員室が分散しているため、校務やグループウェア等を活用したICT化を推進する。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問(H30:88校)、出前授業(H30:10校)、学校説明会(H30:20件)の精査・充実 イ・幼・小・中学校との連携:7回以上 (H30:7回) ウ・志願者倍率:1倍以上(H31:[総合]0.96倍、[工学]1.28倍、[全体]1.01倍)</p> <p>(2) ア・ものづくり大会やコンテスト等の成果 (H30:旋盤が近畿大会第5位、課題研究2作品が高校生技術・アイデアコンテスト全国大会で優秀賞・理事長特別賞を受賞) イ・マイコンカー、ロボット相撲・パソコン甲子園等の成果 (H30:ロボット相撲・パソコン甲子園モバイル部門が全国大会出場)</p> <p>(3) ア・部活動加入率:67%以上 (H30:64.7%) イ・改革や課題解決による成果 ウ・ICTの更なる促進</p>	